

JICA 中国事務所ニュース 1月号

目次

【最近のトピックス】

- ◎ JICA 長期研修員同窓会年末大会を開催 1
- ◎ 「中国地方行政官庁借款実務研修セミナー」に参加 2
- ◎ 中国事務所初？防災担当所員誕生！ 3
- ◎ 循環型経済促進法及び関連制度セミナーを開催 3

【ニュース】

- 農村社会養老保険制度整備調査最終セミナー 4
- 貴州省環境整備・人材育成事業 CDM 調査 5
- ボランティア総会が開催 5
- 中国の自然を守ろう！ 6

【人の動き・主要行事】 6

【寄稿コーナー】 7

【帰・赴任者紹介コーナー】 9

【中国の動き】 11

最近のトピックス

◎ JICA 長期研修員同窓会年末大会を開催



JICA 中国の大切なサポーターです

2008年12月20日(土)JICA 長期研修員同窓会の年末大会が北京華都飯店にて開催されました。当事務所からは藤本正也次長を代表とする相互理解促進分野の担当、NGOデスク担当及びOJTが会議に参加しました。

同窓会側は理事長葛偉軍、秘書長郝莹、理事傅兴国、申兵、程浩をはじめ、北京及び地方の同窓会会員13名の方々が集まりました。

JICAは、1999年から高等教育による人材育成のための長期研修制度を開始し、この制度を通じて今まで日本研修に参加した中国の青年が68名に上っています。これらの研修員の内、60数名が既に帰国し、中国各地で活躍しています。

今大会は2007年3月に同窓会を設立してから初めての会員大会であり、会議では同窓会が既に実施した活動について会員たちに報告説明すると共に財務報告も行いました。

これまで会員は積極的に日本大使館や中国事務所が主催するイベントに参加すると同

時に、様々なチャリティ活動を実施しています。例えば貧困地域である山西省寿陽県での活動では幹部と座談会を行い、留学で得られた知識を用いて地方政府行政の改善にアドバイスをしたり、また、小学校で生徒たちと交流して、文房具などを寄付したりしました。

四川大震災の際には、現地被災者のニーズに応えるため、同窓会会員が迅速に衛生防疫パンフレットを製作し、四川省内の会員を通じて被災地の人々に配布したのも記憶に新しい活動です。

今後の同窓会活動展開については、引き続きホームページの充実など会員間の連携強化に勤めるべきとの意見で一致し、JICA長期研修員事業開始10周年(1999-2009)記念として、長期同窓会記念文集を作成することなどの提案もありました。

JICA中国事務所としても、今後は、長期同窓会の機能をさらに活かし、研修員とJICA、研修員と協力隊員の交流、引き続き支援を行っていく予定です。(相互理解班 周南)長期同窓会のホームページのアドレスは<http://www.jica-alumni-china.com/> ですので、どうぞアクセスしてください。

◎ 「中国地方行政官円借款実務研修セミナー」に参加



研修員が熱心に案件監理の講座を勉強しました

2008年12月9日から16日まで東京の本部で実施された「中国地方行政官円借款実務研修セミナー」に参加しました。本研修の対象は中国財政部や各地財政庁の円借款

案件の担当者であり、私とフスラ所員が通訳及び調整員補佐として19名の研修員と一緒に東京、札幌、旭川を訪問しました。



北海道給熱公社中央エネルギーセンターではセンター長のお話にインパクトを受けました

12月10日、11日、15日に、新宿の本部で行われた円借款案件監理等各種業務を中心とした九つの講座に参加しました。それにより、円借款業務の案件監理、調達監理、評価、貸付、環境配慮等の制度、事例に対する全体像を把握することができました。各地方から参加した研修員が案件監理、調達手続きの諸問題と迅速化について活発に情報交換をし、議論を行いました。

12月12日、13日には、札幌市及び旭川市の各種施設を訪問しましたが、そこで経験した印象深いエピソードをご紹介します。

北海道熱供給会社中央エネルギーセンターを見学したときのことで、センター長から紹介があり、環境に配慮するため2009年春から資金を投入して施設を更新する予定とのことでした。政府から環境に一層配慮するよう指導があり、また、一般住民の健康にもよいため、センターが自ら資金を出して施設を更新する計画であると、センター長がごく当然のことだという表情で説明してくださいました。すると一人の研修員から「更新するならば、住民からの供熱費を値上げするのか？」という質問が出ましたが、「値上げはしません。」とセンター長ははっきりと回答しました。中国であれば政府の指導をしっかりと実施しない機関も多く、また、実施しても発生した経費を住民に分担させることになるので、研修員

はとても驚きました。センターの規模はそれほど大きくないですが、見習うところが多いと研修員全員は敬服しました。

12月15日に行われた閉講式の際には、団長は全員を代表して、日本政府の円借款事業の実施は中国地方の発展に重要な役割を果たしており、JICAに感謝したい等高い評価が述べられました。感謝の言葉を受けたJICAの一員として光栄に思いました。

今度の出張が良いきっかけとなり、円借款業務の基本知識を勉強でき、興味を持てるようになりました。現在事務所内の円借款・技協の勉強会が既に数回行われていますが、参加者はますます増えてきています。このような明るい雰囲気の中で、皆が新しい知識や技能を積極的に吸収している姿を見て、将来必ずもっと良い仕事ができ、もっと効率良く仕事できると確信しています。(経理班 李瑾)

◎ 中国事務所初？防災担当所員誕生！

昨年末の12月16日から20日までの日程で、タイで実施された在外事務所員研修(アジア防災)に参加してきました。タイは、ちょうど12月上旬に空港がデモ隊に占拠され閉鎖されるという事件があったばかり。大丈夫かと心配しながらの出張でしたが、到着してみるといって平穩、すでに日常が戻っていました。

研修にはアジア地域8カ国の事務所から、防災分野を担当している職員や企画調査員が参加。防災協力の基礎知識、コミュニティ防災、各国の防災協力の事例紹介などを中心に、講義や発表のほか、活発な質疑応答、意見交換が行われました。

私はというと、これまで防災分野担当の経験もなければ、専門でもない全くの素人。中国事務所にはこれまで「防災担当」はいなかったのですが、この研修をきっかけに防災担当に立候補し、参加させてもらったのです。(決して暖かいタイに行きたかったからではありません！)

研修では基礎から様々な事例まで、非常

に参考になることが多く、帰任してから早速、スリランカの事例を使って四川地震関連事業を整理してみたり、コミュニティ防災について勉強したりしています。防災協力はまさに人間の安全保障。自然災害は止められませんが、被害を少なくすることはできます。中国の自然災害の被害を減らし、人々が安心して暮らせる体制作りになれればと思っています。

タイでは番外編として、みんなでおいしタイ料理、疲れを癒すタイマッサージも堪能。もちろんこれらも担当者間のネットワーク強化に役立ったことはいまでもありません。

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)

◎ 循環型経済促進法及び関連制度セミナーを開催



循環経済の実現に向けて熱く議論

2009年1月1日より、中国は「循環経済促進法」が施行されました。それに合わせてJICAと日中友好環境保全センターは2008年12月15日から20日までの6日間、北京において「循環型経済促進法及び関連制度」セミナーを主催しました。全国から53名の環境行政官が集まりました。

初日の講義は元日中友好環境保全センター国際処の張琦様(新疆ウルムチ環境局出向中)が長年国際協力の業務に携わった経験を紹介するとともに今後の日中環境協力の未来図を語りました。続いて、中国の「循環経済促進法」の立法委員会専門家チームの総括を勤めた清華大学の張天柱教授が循環経済促進法の背景やプロセスを紹介しました。実際に立法に関わった専門家の生の

声を聞いて、大変印象が深いものでした。中国循環経済の理念はかなり以前からあり、法律が施行されるまでは長い道のりがあったことが分かりました。

そのほか、中国環境科学院、センターの教育宣伝部など中国側は著名な先生たちがそれぞれ講義を行ったことに合わせて、日本側が3名の講師が講義を勤めました。JICA「循環型経済の促進プロジェクト」で現在環境部に長期専門家として活動中の土谷武専門家（環境省所属）が「日本の循環型経済社会の構築」というテーマで資源の少ない日本においては、リサイクルの必要性からいち早く循環型社会の構築を取り込んだことを紹介しました。また、今回セミナーのため日本より2名の専門家を派遣し、講義を頂きました。川崎市環境局環境技術情報センターの井上雄一氏からは「循環経済型社会における川崎市の取り組み」について、日本環境安全事業株式会社の樽林茂夫氏からは「循環型経済社会構築における有害廃棄物処理(PCB処理)」について、それぞれ講義が行われました。

セミナーの最終日にはグループディスカッションが行われ、日本人講師がグループに

参加し、地方の環境行政官と意見交換をしました。参加者にはこれまで殆ど日本との交流がなかった地方の環境行政官が多く、熱心に日本人専門家に質問し、アドバイスを求めています。特に、中央政府・地方政府・企業との連携、循環経済促進に受けた意識向上、環境と経済との共生など制度上の議論がありました。また、PCB処理費用、施設の建設についての具体的な相談もあり、今回のセミナーに留まらず、今後の地方行政官と日本側との交流のきっかけ作りとなったことは今回セミナーにとって大きな成果となります。

このようなセミナーは今年の3月にもう一度開催されます。3月のセミナーは日本人講師を派遣すると同時に、中国の代表的な工業パークである蘇州工業園へも視察する予定です。
(環境2班 邢軍)

ニュース

■ 農村社会養老保険制度整備調査最終セミナー



挨拶する胡晓義副大臣

1月10日、農村社会養老保険制度整備調査最終セミナーが北京で開催されました。人

力資源・社会保障部の胡晓義副部長、当事務所の山浦信幸所長、日本大使館の片山和之公使が挨拶をされました。

JICAは、2006年1月より、中国全土に普及可能で安定的運営が可能な農村社会養老保険(「農保制度」)の創設に向けた提言と取るべき政策を明らかにすることを目的とし、本調査を実施しています。そのため、8省から8県を調査対象地域に選び、これらの地域の事情に合致した農保制度の改善案の策定、制度の実施に必要な人材育成、制度の普及啓発、および情報システムの構築といった活動を日中の専門家同士が協力しながら行っ

てきました。こうした日中協力事業の集大成として、農保制度のあるべき姿について、本調査で取りまとめた提言をセミナーで披露しました。

日中間の率直な意見交換では、「基礎年金」創設の方向性については意見の隔たりがあるものの、政府責任(財政投入等)の明確化・全員カバーに向けた制度化、個人口座(完全積立方式)の見直しの必要性、問題点等について、ほぼ認識を共有することができました。

本調査は1月末に終了しますが、農保制度改正を目的とする「新型農保試行活動の指導意見(案)」が近く国務院から提出される予定です。日中協力の成果が中国農保事業の健全な発展、ひいては8億農民の老後の所得保障という重要かつ困難な課題の解決に少しでも役立つように期待しております。

(改革開放・ガバナンス班 鮑迪娜)

■ 貴州省環境整備・人材育成事業 CDM 調査



貴州では木材を燃焼している農家が多い

昨年12月7日から14日にかけて、貴州省環境整備・人材育成事業(05年度円借款案件:承諾金額9,173百万円)のCDM(Clean Development Mechanism)調査を実施しました。

本事業には様々なサブプロジェクトがありますが、その中にメタンガス活用施設があります。これは農家が飼育している豚などの家畜と人糞を発酵させ、そこから発生するメタンガスを利用してガスコンロによる炊事を行うも

のです。これまで農民は主に木材を採取し燃焼させることによって、炊事用のエネルギーを確保してきました。本事業により、農民の生活環境の向上と木材の燃焼によるCO₂の削減が期待されます。

円借款によるメタンガス活用施設の調達は一部で開始されており、最終的に貴州省12県(いずれも中央政府の定める国家級貧困県)の約5.9万箇所を設置される予定です。

今回の調査は本事業によるCO₂削減効果を利用し、CDMのファイナンス・スキームを利用して、将来的にCER(Certified Emission Reduction: 排出権)の売却益をメタンガス活用施設の維持・管理等に当てるのが狙いでした。残念ながらCDMとしてのフィージビリティ確保は困難という結論でしたが、今後本事業が完成し、農民の生活環境の向上と地球温暖化問題の緩和が達成される見込みです。引き続き本事業が成功するよう業務に励むとともに、CDM等、持続可能な開発に役立つファイナンス・スキームを研究し、新しい価値の創造に努めて行きたいと思っております。

(新人OJT人事部付職員 谷口 剛)

■ ボランティア総会が開催

12月15日に2008年冬期ボランティア総会が北京の華都飯店で開催されました。ボランティア総会では、中国各地で活躍する青年海外協力隊員及びシニアボランティア(以下、「ボランティア」とする)が年2回北京に集まり、情報交換や活動の報告等を行います。今回は、2007年1月から現在まで赴任した41名が参加しました。

翌日は、日本語教師分科会とリハビリ隊員分科会も開催され、JICAプロジェクトの専門家なども交えて、活動先での成功例や悩みも含めて積極的な意見交換をしました。

半年ぶりに顔を合わせたボランティアのみなさん。夜遅くまで配属先での活動の話はもちろん、任地からの土産話や恋話(こいばな)に花を咲かせていたようです。

(ボランティア班 鈴木大介)

■ 中国の自然を守ろう！

～森林・自然環境の保全プログラム準備調査～



トキと自然を守って行きたいです

環境分野は中国に対する協力の重点分野の1つであり、森林保全などに JICA は長年取り組んでおり、中国側から高い評価を得ています。今回の調査は、今後の森林・自然

環境保全分野の協力について中国側と話し合い、どのような協力を実施していくべきか検討するもので、12月9日～12月24日まで実施されました。調査では、まず要請が出されている「トキと人が共生できる地域環境づくり」プロジェクトについて候補となるサイトを視察し、案件の内容を検討しました。トキが生存できる環境が人にとっても安心して生活できる環境になるように、とのコンセプトの下、トキのモニタリングや地域の環境整備、エコツーリズムなどを組み合わせたプロジェクトを実施していくことで日中双方が合意しました。その他、西部地区における林業人材の育成や、国有林場改革などについても協議を行い、今後も密接に意見交換を行って優良案件を形成・実施していくことを確認しました。(環境1班 足立佳菜子)

人の動き

主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

- ・「中国農村社会養老保険制度整備調査」第5回運営指導調査(1/8-11)

(2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

なし

イ. 帰国

- ・唐牛良明(2007.2.1～2009.1.31)
ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト

<ボランティア>

ア. 赴任：20年度3次隊 7名

派遣期間(200. 12. 22～2010. 12. 21)

【シニア海外ボランティア】

- 梶巻正男 環境管理
遼寧省 瀋陽市環境保護局

【青年海外協力隊】

- 中博美 日本語教師
内蒙古自治区 杭錦旗中学

- 嘉部尚恵 日本語教師

吉林省 通化師範学院

- 内田陽子 日本語教師

江蘇省 江都職業高級中学

- 尾崎みつ子 日本語教師

海南省 海南大学

- 板井良依 看護師

湖北省 湖北民族学院医学院附属病院

- 尾崎由美 看護師

湖北省 十堰市太和病院

イ. 帰国：18年度2次隊 14名

派遣期間(2007. 1. 11～2009. 1. 10)

- 小河原房男 デザイン

寧夏回族自治区 北方民族大学

- 高島恵輔 日本語教師

安徽省 安徽中澳科技職業学院

- 井上洋一郎 日本語教師

湖北省 襄樊学院

- 遠藤智幸 日本語教師

- 湖北省 ユン陽師範高等専科学校
- 片井香奈 日本語教師
吉林省 梅河口市朝鮮族中学
 - 寺崎香織 日本語教師
吉林省 通化市朝鮮族中学
 - 金政美静 日本語教師
遼寧省 桓仁県朝鮮族中学
 - 笹村はるか 日本語教師
遼寧省 新賓県朝鮮族中学
 - 中川雅理 日本語教師
内蒙古自治区 内蒙古大学外国語学院
 - 益子暁 日本語教師
貴州省 貴州師範大学
 - 実川真理子 日本語教師
青海省 西寧市世紀職業技術学校
 - 林身江子 幼稚園教諭
重慶市 南坪実験幼稚園
 - 浅野未来 理学療法士
内蒙古自治区 烏海市櫻花病院
 - 山田マキ 看護師
湖北省 十堰市人民病院

(3) 事務所員等の動き

1. 日本人所員
 - ア. 赴任
なし
 - イ. 帰国
なし
2. ナショナルスタッフ
 - ア. 採用
王飛(2009.1.1)
宿因(2009.1.1)
 - イ. 退職
なし

(4) 1月の主要行事

- ・ 東・中央アジア部北野部長訪中

寄稿 コーナー

(1) ブログから本が生まれました



日中草の根交流を語っている「一博一品」

たまに友人と女性のファッションについて雑談をすると、いつも隣の国たとえば日本や韓国などのトレンドの話になりますが、日本の情報やイメージはほとんどがいろいろなメディアから得たもので、少なくとも私が JICA の「広州市院内感染対策プロジェクト」に参

加する前までは一般の日本人同業者や友達とほぼふれあう機会もなく、「一衣帯水」の日本のイメージといえば大部分が間接的に得たもので、見たものだったり聞いたことだったりとして抽象的な感じでした。

2006年12月と2007年8月の2度幸運に恵まれ、病院から日本へ派遣されて科学技術部国際合作司による JICA 広州市院内感染対策プロジェクトの短期研修プログラムに参加しました。その期間中に JICA 研修監視員の蕾さんと知り合い、その時彼女が書いているブログ「在日中国人女性の随筆」を紹介されました。ブログには中国と日本での見たこと聞いたことなどが記され、その中には日中のたくさんのブログ友達(ブロ友)が感じたこと、自分の思いや希望なども書き込まれていました。2度目に日本へ研修に行ったとき

には一人の日本人のブロ友を訪ねたのですが、それは彼女が私たちが六甲山から神戸の夜景を見たがっていることを知り、六甲山の上にある彼女の家に招待してくれたのです。初対面にもかかわらず、家族中が暖かくもてなしてくれて、一緒にテレサテンの歌も歌ったりもしました。これが初めての日本の一般人とのふれあいでしたが、私たちはお互いの友好的な感情を肌で感じたのでした。

研修中に知り合った日本の同じ医療関係者、神戸市立中央病院の春田恒和部長、林三千雄医長、西神戸医療センターの山本剛先生、またこのプロジェクトに参加している方々(福岡市立こども病院、神戸市立医療センター西市民病院など)など、専門知識においてもたくさんの余りある収穫があったのはもちろんのこと、それよりも深く感じたのは普通の日本人の人としての暖かさや誠実さといった一面で、それには心から感動しました。人はだれも感慨深いときには言葉の貧しさに気づくもので、それなら見たことや感じたことを文章に残しておこうと思い立ったのです。

2008年1月、蕾さんは北京で出版社と契約して、処女作「東瀛手記」を出版しました。日本に帰りブロ友たちとの集まりで、「私たちも一緒に本を出版したいね、みんなの感動をつづった文章はたくさんあるし、そうすれば日中間の相互理解が深まることにつながるかも。」ということになったのです。そこで関係各所にたずねて調整し、ネットではみんなからの意見を求めました。2008年2月、ネットで知り合った、日本と中国それぞれで暮らし年齢も13歳から79歳までと幅広いブロ友たちが、一緒になって2ヶ国語の本を出版しよう、という願いを形にすることとなりました。私は光栄にもそれに仲間入りし、執筆を引き受け、その本の中の「異国の恩師と友人」という文章を発表することができました。



明石大橋に集合したブログ作者達

本にも書いたように、私たちは草の根グループで、これらのことは自発的にやってきました。私たちの作品はプロではないし、つたなくて、思い通りにならない部分もあると思います。ただ、私たちの願いには心がこもっていて、ゆるぎないものなのです……。

本を出したブロ友たちは両国それぞれの普通の人たちで、いろんな年代、いろんな仕事を持っています。そんな私たちの必ずしも完璧ではない文字から浮かび上がってきたのは、生活のなにげない思いやお互いのやりとりからうまれた感情なのです。

中国人であれ日本人であれ、私たちは幸運なことに同じ太陽の光を浴び、同じ空気を吸って、地球という星でそれぞれがそれぞれに生活をしているのです。ということをつつも感じます。顔を上げて空を見れば、頭のとっぺんにはほら、おんなじ青空が、そして明るい月が、いつもそこに。

(広州院内感染対策プロジェクト研修員 葉丹)

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 戸上善夫



2006年10月末から新しくスタートした「中国安全生産科学技術能力強化計画プロジェクト」での2年間の長期専門家の任期を終えて11月1日に帰国しました。

担当は労働衛生で、主に呼吸保護具関係（防塵マスクや防毒マスクなど）の検定施設の設置に関しての技術移転を行うことでした。人間の生命に関係する保護具関係（ヘルメットや呼吸保護具など）は、メーカーが保護具を販売する前に、その製品が一定の能力を備えているかを国が検定をして（品質のチェック）、能力を有していることが検査機関により確認されれば、国が販売の許可を出して、メーカーは「安全マーク」を付けて販売することになります。

中国における呼吸保護具関係検査機関の検査能力レベルが低いため、検査能力の向上を図るため、中国の国家基準（GB）に基づく検定施設設置に向けて、カウンターパートと一緒に検査・測定機器や付帯設備の検討作業が多かったです。

中国事務所の方々（特にご担当いただいた皆さん）には、様々な面でお世話になりました。また、ご迷惑をおかけしたこともたびたびあったと思います。この場をお借りして御礼、お詫び申し上げます。

（長期専門家 戸上善夫）

(2) 長期専門家 唐牛良明



私のプロジェクトは中国のワクチン政策を支援しています。ワクチン対象感染症の確認は、実験室が当該感染症を引き起こす病原体を同定することで確定診断となります。中国では国家実験室、省実験室、更には地区実験室もこの業務に従事しています。この活動を支援するため、私は主に内陸部の実験室を対象に、研修はじめ技術指導を行いました。

訪問当初、技術水準こそ先輩専門家の指導が奏功していたものの、施設は貧弱で、実験に使用する蒸留水の水質をまず心配しなければならぬ状況でした。現在では、ほとんどの実験室は新築ビルの中にあり、安全性の高い検査を実施するようになってきました。遺伝子診断のような高度実験室診断技術も採用しようと努めています。

私はただし、彼らが砂上の楼閣作りをしないよう、“手から手へ”の技術指導を徹底し、基礎技術の重要性を認識させるよう努めました。この手法は地味ではありますが、他のドナーにはないJICAが誇るべき技術支援ではないかと自負しています。業務を無事終えるにあたり、私の活動を常時ご支持くださったプロジェクトの皆様、カウンターパートの皆様、JICA 中国事務所の皆様に厚くお礼申し上げます。

地方空港へ降り立ち、私の教え子たちが「先生、待ってましたー」と駆け寄ってくる時が、専門家冥利に尽きる瞬間でした。ホスピ

タリテに満ちた彼らは、これからも私の財産となり続けることでしょう。

(長期専門家 唐牛良明)

(3) 離任のボランティア協力隊員の挨拶 ～2年間の活動を終えた14名の青年海外協力隊員が帰国しました～



2年間、お疲れ様でした!

今月11日に2年間の活動を終えた青年海外協力隊員14名(18年度2次隊)が無事帰国しました。

帰国間際に伺った話です……。

幼稚園隊員が配属先を離れる時のこと。普段何かと問題を起こしていたある幼稚園児が、門のところまで仁王立ちになって「先生行っちゃだめだ!」と言って別れを惜しんでくれたこと。また、別の日本語教師隊員からは、配属先の学生や先生が隊員の姿が見えなくなるまで見送ってくれたことなどを伺いました。

それぞれの中国での2年間。一言では語りきれないことがたくさんあったことと思います。

嬉しかったこと・辛かったこと・悲しかったこと・楽しかったことなど、胸いっぱいにご活躍した14名の隊員のみなさんの今後のご活躍を心よりお祈りしています。

(ボランティア班 鈴木大介)

(4) 赴任のボランティア協力隊員の挨拶 ～青年海外協力隊員とシニア海外ボランティアが赴任しました!～

今月12日に青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア(20年度3次隊)が計7名

北京での3週間に渡る語学訓練を終え、無事配属先へ赴任しました。

これからの配属先や地域での活躍が期待されています。



これから中国でのボランティア活動に挑戦します

(ボランティア班 鈴木大介)

(5) 新職員 宿因



私は1月5日から事務所に入った宿因で、ボランティア班の総務関連の仕事を担当しております。この仕事は日本から帰国した後初めての、また政府機関でも初めての仕事です。勉強すべきものがいっぱいあり、ちょっと緊張します。でも事務所の皆さんはみんな優しく接してくださり一週間でもう仲間になった気分です。これから事務所の先輩や日本の隊員の方々と勉強しながら、ボランティア班で精一杯頑張りたいと思います。

最後に、2009年また農曆の牛年がいい年になりますように、お祈りを申し上げます。

(新職員 宿因)

(6) 新職員 王飛



業で、マーケティング業務を専任しました。これからは JICA で一日も早く仕事に慣れ、皆さんのお役にたつことができるよう頑張りたいと思います。どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。大学時代からさまざまなボランティア活動に参加し、現在は中国欧米同窓会の日本分会の会員です。趣味は水泳と旅行です。
(新職員 王飛)

このたび円借款班に配属になった、王飛と申します。私は 1996 年に高校を卒業した後まもなく日本へ留学し、最初の一年間川崎で日本語を学びました。翌年静岡大学に入学し、専門は経済学、2001 年に同大学の大学院に進学し、比較地域文化を専攻しました。2003 年修士号を取った年に、東京にある貿易会社に入社し、主に輸入と調達の仕事を担当しました。2005 年 3 月に帰国し、民間企

中国の動き

万里の長城・初日の出で日中友好の願掛け



初日の出を迎えて日中友好を祈念！

新年快樂！あけましておめでとうございます！・・・とは言っても、中国で大々的に祝われる旧正月、今年は 1 月 26 日が春節です。一方で、新暦 1 月 1 日も、日本と同じく「元旦」と言われています。2 回お正月があっお得な気分ですが、牛年 1 回目のお正月は、世界遺産・万里の長城、しかも“The Best of the

Grate Wall(長城之最)”と名高い司馬台長城への年越しツアーに参加しました！メンバーは先輩職員達と計 4 人で、司馬台長城を望みながら、年越しそばを食べ、長城で初日の出を拝み、お雑煮を食べよう！というスペシャルツアーです。

まずは万里の長城にたどり着くまで一苦労。闇タクシーの運転手の群れの中で値段交渉。竹内先輩の交渉術により安値で交渉成立！・・・かと思いきや、乗り込んで少し運転したかと思うと、運転手は「そんな遠いところまでやっぱ乗せたくない」と言い出す始末。なんとか麓の農村に到着。その後、農家のおばちゃんの家を訪問し、宿泊させてもらうよう依頼。

農村はマイナス 10 度以下の極寒の地。早く家の中に避難したい！と思っていましたが、ふと夜空を見上げると、満天の星！生まれて初めてみるくらいの満天の星空に感動しなが



らも、あまりの寒さにそそくさと家へ。そして、始まるは年末大麻雀大会！結果は、本場中国の雀師・季新さんの圧勝！（私は全敗・・・）一堂啞然となる中で、年越し！2009年あけましておめでとう！の合唱後、即、麻雀再開・・・

極寒の寝室、氷点下の部屋で震えながら朝を待ち、午前6時に出発。真っ暗闇の中、急斜面の長城を登りながら、滴る汗も凍りつく極寒の世界へ突入していきます。朝7時、なんとか頂上に到達。万里の長城の悠久の歴史に想いを馳せる中、薄っすらと空が色づきます。2009年初の太陽が顔を出す中、シャ

ンパンで乾杯！感動！・・・かと思いきや、コップに注いだシャンパンまで凍りだす・・・極寒の世界。

年越しそば、初日の出、お雑煮は初めての中国人の季さん。日中の文化交流としても楽しい年越しでした。日中友好を基礎に、両国が協力して世界の暗さを吹き飛ばす、そんな1年にできるよう新JICA中国事務所、一丸となって頑張ります！と、日の出に誓った万里の長城でのお正月でした。

（新人OJT 人事部付職員 土居健市）

=====

* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 暁静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) までお願いいたします。

=====

* その他お知らせ

- JICAのホームページ： チャイナ ライブラリー（和文・中文）
- > <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>
 - > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>
- チャイナ トピックス（和文・中文）
- > <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>
 - > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>

